

【特集】

## 育む1

理系3研究科の取り組み

新たなる大学院教育に向けた  
三重大学の改革

### CONTENTS

【View of This issue】

大学教育、大学院教育の  
構造的転換へ挑戦する

●理事・副学長 | 山田康彦

01

【特集 / 学長・学部長座談会】

## 育む1

理系3研究科の取り組み

新たなる大学院教育に向けた  
三重大学の改革

●学長 | 豊田長康

●医学系研究科 | 滝 和郎

●工学研究科 | 武田保雄

●生物資源学研究科 | 田中晶善

| 司会 | 理事・副学長 | 森野捷輔

02-05

【RESEARCH FRONT 1】

現代を取り巻く文化衝突を  
多文化研究の最前線から見つめて

●人文学部教授 | 石井眞夫

06-07

【RESEARCH FRONT 2】

中学校での国内最先端の知財教育研究と  
社会貢献につながる技術教育

●教育学部助教授 | 村松浩幸

08-09

【RESEARCH FRONT 3】

食による癌の一次予防を啓蒙する  
エビデンスの開発

●医学部教授 | 樋畑博重

10-11

【RESEARCH FRONT 4】

地域活性化の基盤技術を目指す  
人と環境に優しいバイオエタノール研究

●生物資源学部教授 | 久松 眞

12-13

【CLOSE-UP Interview】

大学人と企業人コンビで、  
産学連携の未来を創る

●工学博士 | 飯田和生

●工学修士 | 齋藤 寧

14-15

【TOPICS】

「周術期輸液の考えかた」

「戦場論/上 小牧・長久手の戦いの構造」

「戦場論/下 近世成立期の大規模戦争」

2005年12月～2006年5月

三重大学の主な出来事

16



## 大学教育、大学院教育の 構造的転換へ挑戦する

理事・副学長(教育担当)

山田康彦

2005年に大学及び大学院の将来にとって重要な答申が連続して出されました。すなわち中央教育審議会から1月に「我が国の高等教育の将来像」が示され、9月には「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて—」が提出されました。そこで求められているのは、各大学と大学院がそれぞれの役割と目的を明確にし、それにしたがって組織的に教育課程を展開することにより、学位にふさわしい教育の実質化を図ることです。さらに、評価制度の導入と充実などを通して「教育の質」を保証し、特に大学院教育では国際的な通用性、信頼性を向上させることです。このように教育の質を向上させ、透明性を確保して説明責任を果たすことは、たとえば1999年にEUが欧州域内の高等教育の国際競争力を向上させるため採択したボローニャ宣言に見られるように、高等教育におけるグローバリズムの展開の中で、大学が存立していくための必須条件となってきています。そして、三重大学にも地域圏大学としての立脚点から、改めて社会のニーズを的確にとらえた研究と教育の設定が求められているのです。

そこで私たちが留意しておかなければならないのは、史上初めて大学に人格形成機能が必要とされてきていることです。これは大学生に対してコミュニケーション能力や学習・研究上の主体性を培うことの必要性が指摘されているのを見ても明らかです。人間諸活動に関する古代ギリシャの三区分を使用すれば、歴史的に大学はまず真理を探究するテオリア(理論)の領域に携わる場として成立しましたが、その後、近代科学技術の進展の中でテクネー(技術)の領域も含み込むようになりました。しかし、人と人との関係の中から社会を形成していくプラクシス(実践)の能力の育成は、西欧の主知主義の伝統の中で、大学の教育機能の枠外に置かれてきました。中世以来のリベラル・アーツや1930年代以降のジェネラル・エデュケーションなど、いくつかの教養教育の型はありますが、どれも社会性の育成には成功しませんでした。したがって私たちは今、学生のコミュニケーション能力など人格的諸能力の育成を目標に掲げていますが、これは実は従来の大学教育の枠組みを越えた歴史的な挑戦だといえます。また、理論と技術の領域でも、理系大学院に顕著に見られるように、産業界等からの先進的な研究と人材養成の要請に大学らしく応える方途が新たに求められています。こうしたニーズに応えるべく、三重大学では教育の構造的転換を目指して、さまざまな挑戦をはじめています。

やまだやすひこ  
教育学修士  
専門分野は、美術・芸術教育学  
1954年生まれ

